

澤地正氏(海老名市)が神奈川県知事賞 ～神奈川県いちご品評会(果実の部)～

神奈川県産いちごの出荷が順調にすすむ1月7日、神奈川県いちご組合連合会主催(事務局:全農かながわ)の「神奈川県いちご品評会(果実の部)」が、JAいせはら本所で開催された。県下11地区(寒川、海老名、座間、厚木、平塚、伊勢原、秦野、足柄、小田原、横須賀、藤沢)から、148点が出品された。神奈川県農業技術センターや主要青果卸売市場の担当者らが、大きさや重さ、色つや、姿形が揃っているか、パック詰め技術など、厳正に審査した結果、澤地正氏(海老名支部)が出品した「とちおとめ(3L)」が神奈川県知事賞に輝いた。

今年は、年間を通じて異常気象が続き、いちごの花付きや株の生育、実の肥大などに影響を及ぼした中での品評会になった。審査長の県農業技術センターの北宜裕所長は「今年は、約一ヶ月前に行った立毛審査の優績者が、果実の部でも好成績を収めている。高い栽培技術で根がしっかり張った良い株を育てると、良い果実ができる事を実証している」と評価した。今回の審査から、イチゴパック容量が市場の主流である280g規格に変更されたが、「出品物はどれも素晴らしく甲乙つけがたい。パック詰め技術が結果を分ける例もあるため、今後も出品技術の向上をお願いしたい」と講評した。

審査員をつとめた市場関係者のひとは、いちごの販売状況について「12月は強気の価格設定や消費PRの遅れなどで売れ行きは低調だったが、年明けから値ごろ感が出て売れ行きも上向きになった。県産いちごは、『地産地消』の人気商材として県内の販売店で需要が高い。県産いちごは、輸送距離が短いため果肉の傷みも少なく、完熟させているので美味しい。今日のように高品質ないちごの市場出荷を今後も期待している」と激励した。出品されたいちごを品種別にみると、果肉が固く流通に適した「とちおとめ」「さちのか」と、柔らかく摘み取り園で人気の「章姫」「紅ほっぺ」の四種が大勢を占めた。

果実の部に先立ち12月に県内各地の圃場で実施された「立毛の部」審査では、片野和彦氏(秦野支部)が農林水産大臣賞を受賞した。



色や形が揃った148点のいちごを厳正に審査した



審査後、JAいせはら直売所で出品物の即売を行った